

JRA競走馬総合研究所スタッフが語る

ケラブレット のおはなし

大村 一

(JRA競走馬総合研究所) = 文
text by Hajime Ohmura

「ついにやりました。凱旋門賞で日本調教馬の優勝です。快挙です」

一昔前なら、関係者の誰もが夢のように考えていた海外のビッグレースでの日本馬の活躍。国外での競馬に参戦する競走馬が増加してきているこの頃、このような実況が聞けるのも、もう間もなくかもしれない。昨年、インフルエンザ騒動で遠征を取りやめたメイショウサムソン。残念ながら正夢にはならず、10着に終わりました。

競走馬が海外に行く。島国、ニッポンからということになれば、避けて通れないものがあります。それが航空機での輸送です。さて、馬たちはどんな空の旅をおくっているのでしょうか。

競走馬の場合、空港に到着すると、まず、馬運車からエアーストール(飛行機用の馬房)に乗せ替えられます。そして、このストールごと飛行機に乗せられるのです。ストールは通常3頭用ですが、競走馬の場合、このストール一つに1頭ないし2頭で乗せられます。ストールの内部は1頭がちょうど入るサイズに板で仕切られています。隣の馬の顔は見えないので、1頭じゃちよつと不安という馬でも、僚馬と安心して旅することができます。また、この板の仕切りは、馬運車と同様に、馬の大きさジャストサイズ。良くも悪くも身動きがとれません。急な揺れや着陸時の衝撃

Bon Voyage 飛行機の旅も悪くない

は、この仕切りにもたれることで負担を軽減できます。しかし、揺れがほとんど無い安定飛行時は、逆にウロウロしたいことでしょうか。競走馬にかかるストレスは、このような馬が動けない状態にあることや、騒音、揺れなどがありません。長時間の輸送の際にみられる発熱(輸送熱)は、これらのストレスが原因と考えられています。では、実際のところ航空機輸送は馬運車による輸送に比べて、ストレスが大きいのでしょうか。答を先に申し上げますと「NO」です。

ストレスを測る方法の一つに心電図をとることでわかる自律神経機能の測定があります。この自律神経機能、リラックスしている時には高く、緊張しているときには低くなります。馬運車による長時間輸送ではこの数値が低くなり、ストレスがかかっている状況にある馬がよく見られます。一方、我々が、ヨーロッパから日本に馬を運んだ際にとったデータでは、この数値が高く、思ったよりも快適に空の旅を送っていることがわかりました。これには、馬にあわせた機内の空調や換気の良さ、安定した飛行などが寄与したようです。

海外の競馬で活躍する日本調教馬は今後も増え続けることでしょう。快適な空の旅を終えた彼らには、必ず日本での凱旋の走りを見せてほしいものです。



航空機用のストールに馬が乗り込むところ